



櫻井 政文 議員

- 1、世代間交流について
- 2、認知症対策について

Q ①少子高齢化が叫ばれている中で世代間交流は重要だ。各世代間の交流が地域を元気にしてくれる。世代間交流を推進するための環境整備とその拠点になりうる「こども食堂」を開設する考えはあるか。

②人生百歳時代を迎え、認知症対策は急務である。予防の普及や、早期発見

A ①重点をおいた施策を実施してほしい。また、若年性認知症の対応策、さらに家族の介護負担、徘徊などの社会問題に対するの策を問う。

市長・教育長 ①世代間交流は非常に重要だと認識している。取組が可能なものも進めていきたい。「こども食堂」については今後

の検討課題としたい。

②昨年度は地域包括支援センターにおいて、若年性認知症の方を対象とした実態調査を実施した。また、平成30年4月に認知症初期集中支援チームを市に設置する予定にしている。

今後認知症があっても安心して暮らせる市をつくらせていきたい。



▲全国に広がるこども食堂



▲行方不明者の捜索風景



齋藤 徹 議員

- 1、大震災における行方不明者の捜索について
- 2、本市の公共施設、学校関連施設の衛生面について

Q ①捜索場所の選定方法は妥当か。

②捜索にかかわる消防団員装備の妥当性と手法について。

③市の捜索に対する姿勢について。

市長 ①消防団、消防署、警察署と合同で、年2回海岸線にて実施している。

②団員装備については、

積載車に装備されているトビ口、団員持参のレーキを主たる装備としている。また、団員の安全対策として、救命胴衣の着用、各責任者にトランシーバーの携行を指示している。

捜索の方法は目視を基本とする。

③捜索活動は、消防団に主体となっていたが実

施している。3、4年、手掛かりや、成果が無いのが実状。

今後は、捜索場所の絞り込みや手法の改善、捜索態勢の見直し等を消防団や関係機関と協議検討していきたい。

市としての取り組みも、市幹部を中心に、捜索への参加についても鋭意検討していく。

Q 大震災行方不明者の捜索について

A 市職員の捜索参加も鋭意検討